

兵庫県は、障害者雇用を拡大させるため、来春から農家への就労仲介を始めることを決めた。すでに、障害者の農業を手助けする「就労サポーター」の養成講座を開き、特別支援学

校の生徒とともに農場実習を重ねるなど準備を進めている。受け入れ農家の開拓などが課題だが、開拓支援員を採用するなどして態勢構築を急ぐ。
(桑名良典)

雇用拡大、来春から兵庫県開始

障害者の就農仲介

サポーター養成、準備急ぐ

就労仲介は、特別支援学校の卒業生や福祉施設などで働く障害者らを対象に、県社会福祉事業団・五色精光園（洲本市）が担う。障害者とともに派遣される就労サポーターの養成講座には、淡路島内の主婦やリタイアした団塊世代の20人が参加、7月に研修を修了した。翌月から、県立あわ

じ特別支援学校（同市）の生徒と、タマネギなどの収穫や選別、出荷、草刈りなどの実習に取り組んでいる。

「しやすい」と期待を込める。

一方、実習などを通して、受け入れ農家の開拓

話し合う予定で、障害者支援課は「障害者の新しい就労モデルとして確立したい」としている。

サポーターの指導を担当した兵庫県立天来学院の豊田正博准教授は「作業を見せながら教えることで習得も早くなる。知的障害者は繰り返し作業が得意で、農作業に適応

サポーターの増員などの課題が浮上。県は12月の補正予算で、受け入れ農家を開拓する支援員1人の配置を盛り込んだ。また、来年2月には関係者を集めて課題への対応を

▽農閑期の雇用継続策▽サポーターの増員など



電動草刈り機を使って作業するあわじ特別支援学校の生徒と指導農家＝南あわじ市広田中筋

平成23年12月13日(火)
神戸新聞 朝・夕
8 頁 地域経済版